

## コミュニケーション

9月12日から、あいさつ運動が始まりました。朝から暑い中、まずは手本を示そうとはじめに運営委員会が、続いて高学年の人たちがクラスごとに、昇降口付近で列をつくってあいさつを行っています。6、5年各クラスが順番であいさつ運動をした後、26日からはペア学年ごとに行っていきます。

そういえば夏休みが明けて間もなく、暑さに負けてしまったのか、ややあいさつが弱々しい人が見られました。しかしこのごろは、元気なあいさつが多く見られるようになってきたように思われます。あいさつ運動の成果が出てきているのでしょう。あいさつはコミュニケーションの第一歩。この調子で、学校ではもちろん、地域や家庭でも「しっかりあいさつ」ができるとよいです。

9月15日（金）5校時、釜利谷中学校ブロック各校の教職員が集まって、小中一貫授業研究会を行いました。今年度は本校が会場校となって、6月に第1回を行い、今回は2回目で授業を公開しました。わが学校のことながら、どのクラスでも子どもたちが落ち着いて学習に集中して取り組んでいる姿が見られ、大変立派な授業態度で大変うれしく思いました。

授業後、子どもたちが下校してから、各教科に分かれて研究会を行いました。釜利谷中学校ブロックは本校、釜利谷中学校、釜利谷南小学校、高舟台小学校の4校です。これらの学校の教職員が、6月の第1回研究会に引き続いて、各教科の小学校から中学校につなぐ系統性や、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力、中学校ブロックで共通してめざす「コミュニケーション能力の育成」について協議しました。熱意ある教職員が集まっているからでもあります、顔を合わせて話すのが2回目ということもあり、その教科の会場でも活発な意見交換が行われていました。中学校ブロックという地域の子どもたちを共に育てる教師として、有意義な時間をもつことができたと思います。

セミの声が遠くなってきたように思われますが、夏の気配がまだ残っている中、自然豊かな釜利谷小学校では昆虫の活動する姿が見られました。

正門のマツの木付近に、ウバタマムシというタマムシの一種が飛んできました。タマムシといいながら七色に光ってはいないのですが、あまり見かけない珍しい昆虫なのではないでしょうか。プール横のミカンの木には、アゲハの幼虫がいました。

